

特集「社会を繋げるパーベイシブシステムと高度交通システム」の編集にあたって

稲村 浩^{1,a)}

ネットワークで結ばれた情報通信機器の普及と発展にともない、知的情報が大量に社会から得られる時代になりつつある。これらを活用し社会の効率化を図り、新たな価値を利用者に還元することが求められている。その実現に向けて理論的な基礎を与える研究や、様々な実用研究や商用化を目指した開発、実用を想定した実証実験といった取り組みも進められている。IoT や M2M といったユビキタスな応用や LTE や 5G などの広帯域無線通信技術、アドホックネットワークやセンサネットワーク技術の研究開発と、これらのシステムから得られた情報を有効に活用する様々な方法が提案されている。

これらのテーマに関しては、情報処理学会モバイルコンピューティングとパーベイシブシステム (MBL) 研究会や高度交通システムとスマートコミュニティ (ITS) 研究会が中心となり、毎年 100 件以上の優れた論文が研究会で発表されている。また、1997 年から開催され、今年 20 周年を迎えた DCOMO シンポジウムでも、これらの分野に関連する論文が数多く発表されており、裾野の広がりを見せている。DICOMO2016 シンポジウムでは、262 件の発表のうち、64 件が MBL と ITS に係わる発表となっており、今後も広がりを示すことが想定される。MBL と ITS に係わる論文を一括掲載することにより、この分野の研究を推進し、その発展に寄与することは情報処理学会として意義のあることである。本特集はこのような研究推進を目的とし、MBL 研究会と ITS 研究会が共同で企画した。

本特集号の編集経緯は、以下のとおりである。

論文募集公開：2015 年 11 月 25 日

投稿締切：2016 年 4 月 7 日

第 1 回特集委員会：2016 年 4 月 15 日

第 2 回特集委員会：2016 年 6 月 17 日

第 3 回特集委員会：2016 年 9 月 23 日

投稿数 22 件に対し、慎重に審議した結果、採録が 1 件、条件付き採録が 12 件、最終的には 12 件の論文が採録された。採録率は 55% である。投稿論文の内訳は、アドホック/センサネットワーク 5 件、スマートフォンアプリケーション 5 件、位置/行動推定 8 件、車車間通信 3 件で、こ

のうち採録されたのは、アドホック/センサネットワーク 3 件、スマートフォンアプリケーション 2 件、位置/行動推定 4 件、車車間通信 3 件である。

本特集では 2 編の招待論文を寄稿いただいた。愛知工業大学の内藤克浩氏による IoT 分野における標準化から研究動向まで含むサーベイ論文と、神奈川工科大学の井上秀雄氏、東京農工大学のポンサトーン・ラクシンチャランサク氏、トヨタ自動車 (株) の井上慎太郎氏による自動運転技術に関する研究論文である。どちらの論文もこの分野の読者の関心に適うものと確信する。

編集委員会としては、モバイルコンピューティング分野、および高度交通システム分野の幅広い技術の中から、注目されている分野の技術に関して質の高い論文を採録できたと考えている。MBL/ITS の幅広い分野での投稿があったことから、特集号の目標は達成されており、今後も本特集号を継続していく予定である。最後に、幹事および編集委員の方々と、投稿していただいた会員の皆様に御礼を申し上げます。

「社会を繋げるパーベイシブシステムと高度交通システム」
特集号編集委員会

- 編集長
稲村 浩 (公立はこだて未来大学)
- 幹事
深澤佑介 (NTT ドコモ)
- 編集委員
虻川雅浩 (三菱電機), 岩本健嗣 (富山県立大学), 内山彰 (大阪大学), 太田 賢 (NTT ドコモ), 大内一成 (東芝), 小川将克 (上智大学), 柿崎淑郎 (東京電機大学), 梶 克彦 (愛知工業大学), 川井 明 (滋賀大学), 木谷友哉 (静岡大学), 清原良三 (神奈川工科大学), 窪田 歩 (KDDI 研究所), 澤野弘明 (愛知工業大学), 重安哲也 (広島県立大学), 柴田直樹 (奈良先端大学院大学), 白石 陽 (はこだて未来大学), 鈴木秀和 (名城大学), 湯 素華 (電気通信大学), 寺岡文男 (慶應義塾大学), 寺島美昭 (創価大学), 前田久美子 (日本アイ・ビー・エム), 森野博章 (芝浦工業大学), 吉濱佐知子 (日本アイ・ビー・エム), 渡邊孝文 (KDDI 研究所)

¹ 公立はこだて未来大学システム情報科学部
Future University Hakodate, School of Systems Information
Science, Hakodate, Hokkaido 041-8655, Japan

a) inamura@fun.ac.jp